

進んで生活をより良くする子どもを育てる家庭科学習

家庭科専科
静川 郁子



汚れに応じた掃除の仕方を工夫しよう

「子どもたちが、汚れの落とし方について実感を持った理解をすれば、学校でも家庭でも進んで掃除をするだろう」という仮説のもと授業を組み立てた。同時に、汚れの種類・汚れ方に合わせた掃除ができれば、物を傷めずに長く使えることを理解し、子どもたちに持続可能な社会の担い手になって欲しいという願いを込めた。

また、知識をより確かな物とするために、同時期に理科「水溶液の性質」を学習するようにカリキュラムデザインをした。

1. アンケートから見える家庭との連携の必然性

掃除が「とても好き」「好き」と答えている子どもは、各家庭での自分の掃除する場所が決まっているという事が分かった。それらの子どものうち67%が、風呂を掃除し、自分の部屋を33%の子どもが掃除しており「掃除の仕方を知りたい」という問題意識をもっていた。

表1 「掃除は好きか」

とても好き	8人
好き	20人
どちらでもない	34人
嫌い	20人
とても嫌い	12人

以下の質問にああなたの気持ちに一番当てはまるのはどれですか。

とても そう 思う	そう 思う	どちら でも ない	そう 思わ ない	全く そう 思わ ない
-----------------	----------	-----------------	----------------	----------------------

- あなたは、掃除をするのが好きですか。
- 1でこたえた理由をおしえて下さい。

1. 掃除をするのはお好きではありません。
2. なぜ好きじゃないかというとききれいになったら気持ちいいけど掃除時間はしたいことをできる時間をはぶくからきらいです。

- 掃除について学習します。あなたは、どんなことを知りたいですか。また、できるようになりたいと思っていますか。

掃除のし方や何を使って掃除をするかを知りたいです。
できようになりたいとちょっとだけ思っています。

- ・家では誰が主に掃除をしていますか。(ママ)
 - ・あなたが担当しているそうじはありますか。(ある) ない
- 「ある」と答えた人は、それは、どこのそうじですか。(お風呂、洗面)

図1 アンケート回答用紙

①場所(洗面台)

その場所を選んだ理由
家族がみんな使うからきれいにする

②めあて
綺麗な状態で使えるようにする

③準備する物
クエン酸・スポンジ 雑巾

④掃除の仕方・順番
①水ですする ②洗剤をこする ③水で洗い流す
④タオルで水がなくなるまでしぼり拭く

図2 わが家のクリーン大作戦



図3 重曹を使って汚れを落とそうとする様子

2. カリキュラムデザインの有効性

図2から、水垢がアルカリ性であるという知識を活かし、クエン酸を使用していることが分かる。感想には「すみずみまできれいにするのは大変だから、自分はあまり汚さないようにしようと思いました。いつもそうじしてくれる人の気持ちが少しわかりました。」とあった。使いながらきれいに保とうとすれば、掃除も大変にならないという気付きであり、家族の一員として生活をより良くしようとしている行動だと言える。

図3は、水拭きだけでは落ちなかった扇風機の汚れも、弱アルカリ性の洗剤を薄めて使い、最後まできれいにしていく様子である。理科で習得した「水溶液の性質」の知識を活かしている。カリキュラムデザインは有効に働いたと言えるのではないだろうか。